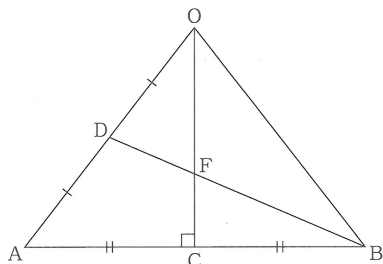


第5問 図形の性質

(1)



$\triangle OAB$ は $OA=OB$ の二等辺三角形であることと、 C は辺 AB の中点であるから、

$$\angle OCA = \boxed{90}^{\circ}$$

であり、直角三角形 OAC に三平方の定理を用いると、

$$\begin{aligned} OC &= \sqrt{OA^2 - AC^2} \\ &= \sqrt{4^2 - (\sqrt{6})^2} \\ &= \sqrt{\boxed{10}} \end{aligned}$$

である。

また、 F は $\triangle OAB$ の中線 OC と中線 BD の交点であるから、 $\triangle OAB$ の重心である。よって、 $\boxed{\text{オ}}$ に当てはまるものは

$\boxed{\text{②}}$ である。

したがって、

$$OF:FC = 2:1$$

であるから、

$$OF = \frac{2}{3}OC = \frac{\boxed{2}}{\boxed{3}} \sqrt{\boxed{10}}$$

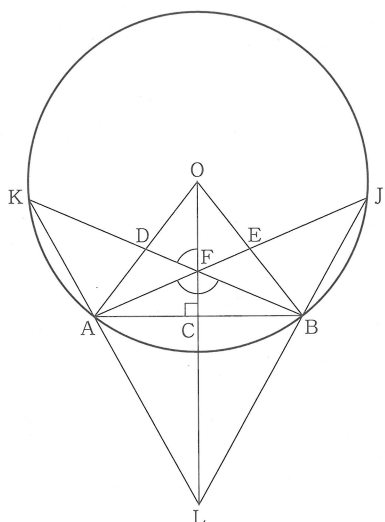
である。

← $OA=4$ (円 O の半径),
 $AC = \frac{1}{2}AB = \frac{1}{2} \cdot 2\sqrt{6} = \sqrt{6}.$

← 三角形の頂点とそれに向かい合う辺の中点を結ぶ線分を中線という。また、三角形の三つの中線は1点で交わり、その点を三角形の重心という。

← 三角形の重心は各中線を2:1に内分する。

(2)



直線 FC は辺 AB の垂直二等分線であるから、 $\triangle BFC \equiv \triangle AFC$ であり、

$$\angle BFC = \angle AFC$$

である。また、

$$\angle BFC = \angle OFD \text{ (対頂角)}$$

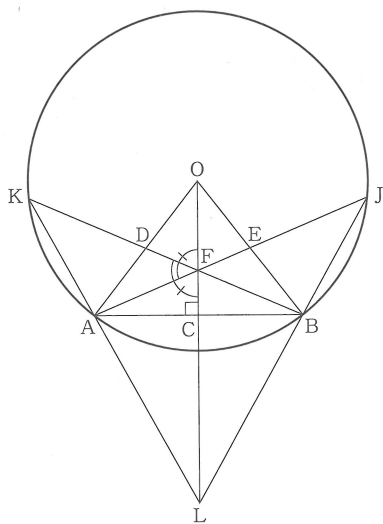
であるから、

$$\angle BFC = \angle AFC = \angle OFD$$

である。

したがって、コ、サ に当てはまるものは ①、

③ である。



$$\angle AFC = \angle OFD$$

であるから、

$$\angle AFC + \angle AFD = \angle OFD + \angle AFD$$

$$\angle DFC = \angle OFA$$

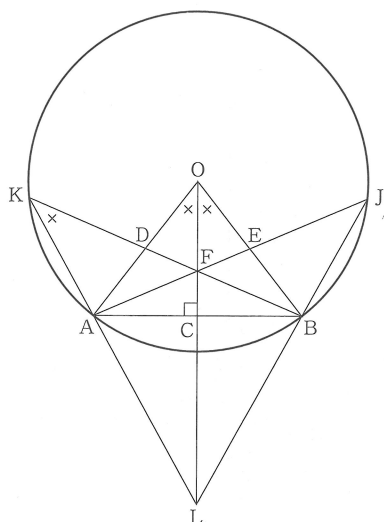
← 両辺に $\angle AFD$ を加えた。

すなわち

$$\angle KFL = \angle OFA$$

… ①

である。



次に、直線 OC は辺 AB の垂直二等分線であるから、
 $\triangle BOC \equiv \triangle AOC$ であり、

$$\angle BOC = \angle AOC$$

である。また、

$$\angle AKB = \frac{1}{2} \angle AOB \text{ (円周角と中心角の関係)}$$

であるから、

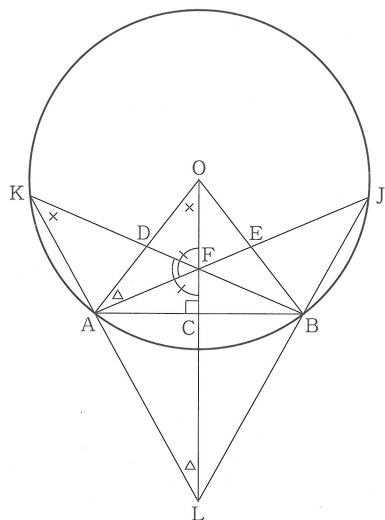
$$\angle BOC = \angle AOC = \angle AKB$$

… ②

である。

したがって、シ，ス に当てはまるものは ⑤，

⑥ である。

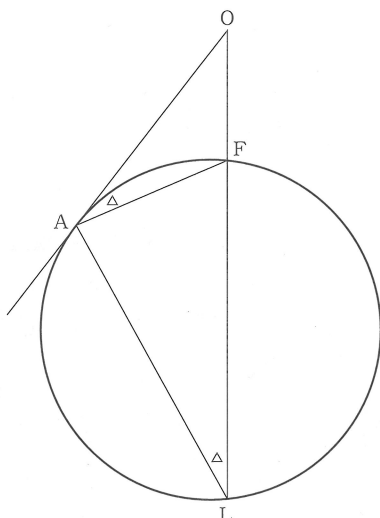


$\triangle OAF$ と $\triangle KLF$ に着目すると、三角形の内角の和が 180° であることと ①, ② より,

$$\angle OAF = \angle KLF \quad \dots \textcircled{3}$$

である.

- (3) ③ より, 接線と弦の作る角の定理の逆から, 直線 OA は $\triangle AFL$ の外接円に接する.



方べきの定理より,

$$OF \cdot OL = OA^2$$

であり, $OF = \frac{2\sqrt{10}}{3}$, $OA = 4$ であるから,

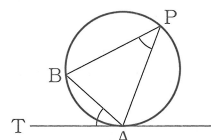
$$\frac{2\sqrt{10}}{3} \cdot OL = 4^2$$

すなわち

$$OL = \frac{\boxed{12} \sqrt{\boxed{10}}}{\boxed{5}}$$

である.

← 接線と弦の作る角の定理とその逆

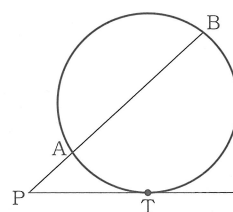


直線 AT が円の接線のとき,

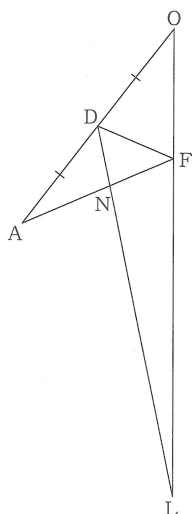
$$\angle BAT = \angle APB.$$

逆に, $\angle BAT = \angle APB$ のとき,
直線 AT は円の A における接線である.

← 方べきの定理



$$PA \cdot PB = PT^2 \quad (T \text{ は接点}).$$



△AFO と直線 DL にメネラウスの定理を用いると、

$$\frac{AN}{NF} \cdot \frac{FL}{LO} \cdot \frac{OD}{DA} = 1$$

であり、

$$FL = OL - OF = \frac{12\sqrt{10}}{5} - \frac{2\sqrt{10}}{3} = \frac{26\sqrt{10}}{15}$$

であるから、

$$\frac{AN}{NF} \cdot \frac{\frac{26\sqrt{10}}{15}}{\frac{12\sqrt{10}}{5}} \cdot \frac{1}{1} = 1$$

すなわち

$$\frac{AN}{NF} = \frac{18}{13}$$

である。

(注1) ☐ コ, ☐ サ の選択肢について。

△OBF に注目すると、

$$\angle BOF + \angle OBF = \angle BFC$$

すなわち

$$\angle BOC + \angle OBF = \angle BFC$$

が成り立つから、

$$\angle BOC \neq \angle BFC$$

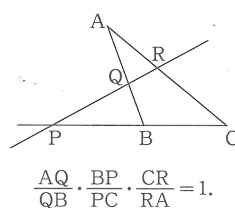
となり、①は不適である。

また、

$$\angle BFC < 90^\circ < \angle OFB$$

であるから、②は不適である。

メネラウスの定理



← D は辺 OA の中点であるから、

$$\frac{OD}{DA} = \frac{1}{1}.$$

(注2) シ, ス の選択肢について.

$\angle BOC = \angle OBD$ とすると, $\triangle OFB$ は $FO = FB$ の二等辺三角形となる. このことと $FA = FB$ より,

$$FO = FA = FB$$

となるから, F は $\triangle OAB$ の外心である. しかし, $\triangle OAB$ は正三角形ではないから, 重心 F が外心と一致することはない. よって,

$$\angle BOC \neq \angle OBD$$

となり, ④は不適である.

また, $\triangle FOD$ と $\triangle FAC$ において,

$$\angle OFD = \angle AFC, \quad \angle ODF \neq \angle ACF (= 90^\circ)$$

であるから,

$$\angle FOD \neq \angle FAC \quad \dots (*)$$

であり, $\angle FOD = \angle AOC = \angle BOC$, $\angle FAC = \angle BAE$ であるから, $(*)$ は,

$$\angle BOC \neq \angle BAE$$

となり, ⑦は不適である.

